

和歌山県立

もん じょ かん  
文書館だより

第18号 平成18年2月



WAKANOURA NIPPON

景の浴水海波男片 浦の歌和

風景の歴史  
紀伊国名所図会等に見る今昔  
風景の移り変わり

【和歌の浦の風景】

前号同様『紀伊国名所図会』の絵図をもとに江戸末期から現代に至るまでの景観の変遷をたどっていききたいと思います。今回は奠供山の前面の市町前干潟を中心とした和歌の浦の景観の変化を紹介します。

図は『紀伊国名所図会』初編巻之二に掲載の和歌の浦の風景です。この図は9ページにわたって妹背山から遠く双子島までを連続して描いたものの一部です。絵図の下部には片男波海岸にあった東照宮御旅所を中心とする松原が描かれています。現在の「御手洗池」は陸地と片男波海岸の砂州によって形作られた入江の最奥部でした。絵図では入江と「御手洗池」を分断する形で「新道」を描いています。高橋克伸氏「絵図に見る近世和歌の景観変遷」(『和歌山地方史研究』17)によると、「新道」は「寛文六年(一六六六)から頼宣死去の年である寛文十一年(一六七一)の間に造られ」たもので、現在の明光通り商店街の延長線上の道路です。『紀伊国名所図会』初編は、文化八年(一八一)の刊行ですので、入江の入口に位置する不老橋は描かれていません。前出の東照宮御旅所は嘉永四年(一八五二)に絵図の場所から南東に約四〇〇mの位置に移設されましたが、この新しい御旅所への裏道とするため



図 『紀伊名所図会』(昭和45年 歴史図書社)より



図 和歌山市立博物館蔵「名草郡沿岸諸港見取図」に加筆したものです

老橋を架橋、その延長線上に片男波海岸に向かって一本の堤防道のような通路が築かれました。(図参照)  
なお、上記絵図には「興洗岩」が描かれています。この岩を基礎として不老橋が築かれたことが高橋克伸氏によって明らかにされています。  
さて、「新道」以東の市町前干潟については元禄以降たびたび塩田の設置願いが出されましたが、ことごとく許可されませんでした。例外として宝永四年(一七〇七)十月の津波により領内の塩田が被害を受け、塩が払底したため、時の藩主吉宗の命によって一時的に塩田が設置されたことはありましたが、享保年間に撤去されています。ようやく許可が下りるのは文政八年(一八二五)のことでした。図は明治末(大正初期)にかけて鏡山の中腹から撮影されたものです。現市

町川と埋め立て前の干潟を区分する細長い堤防がありますが、図にあるように不老橋南詰から延びていたもので、塩田の名残です。  
【エレベーターと明光台の設置と撤去】  
図は望海楼とその敷地内に設置されたエレベーターです。引き潮のため、手前の干潟が見えています。その背後の仕切堤防には水門があつて、ここから海水が入り込んでいました。エレベーターは客寄せの目的で望海楼経営者中尾文吉が一万円を投じて建設、明治四三年(一九〇八)一〇月に開業しました。図は開業直後の様子をとらえたもので、開業を祝ってアーチを建て、杉の葉で飾り立っています。アーチ本体と「明光台」の看板には電飾が施されているようです。開業当初は 図の写真的ように物珍しさ

もあって人気があつたようです。開業翌年の明治四四年八月一日、夏目漱石は大坂朝日新聞社の依頼により、当時公園前にあつた県会議事堂（現根来寺一乗閣）で「現代日本の開化」と題する講演を行つていますが、その前日に和歌の浦を遊覧し、エレベーターに乗っています。後に「行人」の中で「この昇降機は普通のように、家の下層から上層に通じているのとは違って、地面から岩山の頂までもものずきな人間を引き上げる仕掛けであつた。所にも似ず無風流な装置には違いないが、浅草にもまだない新しさが、きのうから自分の注意をひいていた。」と書いています。国内初のエレベーターは、浅草「凌雲閣」（明治三三



図 右の岩山は莫供山です



図 開業直後のエレベーター

年）に設置されたものでしたが、警視庁で調べたところ、落下防止装置が不完全とのことで翌二四年五月に撤去されました。その後日本銀行（同二九年）、三井銀行（同三六年）にも設置されましたが、いずれも屋内のものでした。図のキャブシヨンに「屋外エレベーターの嚆矢」とあるように、屋外設備としては日本初になるのでしょう。開業当初は好評だった



図 右が望海樓本館、左が同別館です



図 名草山(紀三井寺)を背景に憩う人々

【漱石がみた風景】  
図はエレベーター降り口から莫供山に渡された通路の上で休憩する人々です。背後には紀三井寺を望み、莫供山上の南



図 見物客で賑う莫供山頂

側には鉄柵が設けてあります。この写真には見えませんが、漱石の日記には「山のいたゞきに茶店あり猿が二匹ある」と記しています。山頂の石碑は 図にもある文化一〇年（一八一三）建立の「望海樓遺址碑」です。元は莫供山の麓にあつたものですが、いつの頃か塩釜神社の鳥居の西隣に移され（図）、さらに明治三三年（一九〇〇）に明治天皇が連合艦隊を率いて和歌浦湾に碇泊された際、艦上から見えるようにと引き上げられたものです。莫供山上へは玉津島神社の境内からの登り口があります。  
図はエレベーター上の見晴台から片男波海岸を望んだ光景です。右手の曙橋から片男波海岸に至る道路の右側の湿地は一部の水路を残して埋め立てが進んでいます。「新道」の東側のこの区域がいつ頃埋め立てられたのかは定かではありませんが、早くから埋め立てが始まったと思われ、明治一九年参謀本部陸軍部測



図 「和歌浦名勝拾貳景」より

量局仮製地図でも大部分が陸地になっています。曙橋以東の湿地には長方形になっ



図 たこずしやま 草魚頭姿山と曙橋を目印に撮影しました

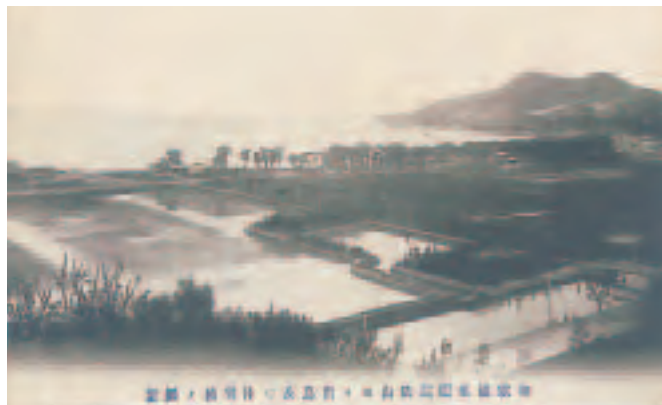


図 図に描かれた地形とよく似ています



図 松林が多く残る片男波海岸

が生えています。塩田として利用していた当時の区画の名残です。現在の和歌浦南二丁目～三丁目にかけての光景です。片男波海岸には左から「片男波館」「ふじや」「島田別荘」の各旅館があつて、東照宮元御旅所から続く松原も残っています。この松林は、明暦三年（一六五七）に御旅所の附近を聖域として整備するため、雲蓋院が所領の村から六二八本の松の苗木を取り寄せ、植えられたものです。漱石が見た風景も概ねこれに近いものだったと思われまふ。このうち、曙橋以東の干潟は大正一二年（一九二三）に埋め立てが完了しますが、現在のように住宅が建ち並ぶのは戦後になってからです。

【片男波海岸の風景】

『紀伊国名所図会』には、片男波海岸を詳細に描いた絵図はありませんが、



図 石張堤防の背後は越波排水路のようになっています

図は江戸期の光景を彷彿とさせるものがあります。砂浜に引き揚げられた漁船以外は工作物は見あたらず、旧東照宮御旅所から東方に続いていた松林が、図よりもよく残っています。撮影年代を確定することが出来ませんが、護岸工事が施される以前の片男波海岸の原風景を捉えています。後に「片男波館」が建設される場所の後方には砂が盛り上がり、小山のようになつて木が生えているのが確認できます。『和歌の浦歴史と文学』（園田香融監修、藤本清二郎・村瀬憲夫編一九九三年 和泉書院）の巻末年表によると、この砂丘は大正元年（一九一三）九月の台風で片男波堤防が決壊したときに消滅しています。この写真は、一枚一枚手作業で彩色を施したもので、写真というよりも絵画に近い趣があります。又、キャプションの文字が反転していますが、これは元の写真が裏焼き状態であつたの



図 図からは約100年経過しています

で、本来の風景に戻すため、画像を反転させたことによりまふ。図は明治四〇年代の撮影と思われるもので、当時の石張堤防の様子がよくわかる写真です。砂浜に打ち込まれている木杭は砂の流出防止のための乱杭です。片男波堤防の突端の向こうに低く横たわっているのが毛見崎で、さらにその奥には藤白山脈を望みます。堤防の背後の建物は、手前から「ふじや」「片男波館」です。最後の現在の写真 図は、図を参考にして、「ふじや」の位置を推定して遠景の山々との位置関係から、撮影位置を決めました。

（溝端佳則）

歴史講座

文書館だより17号でもお知らせしましたが、今年度の歴史講座は10月下旬から12月中旬にかけて6回の講座が、きのくに志学館で開催されました。今年度は和歌山県教育庁の教育史編纂に携わっていらっしゃる方々がそれぞれのテーマで講演されました。(【声】の欄は講演後、参加者から寄せられたアンケートを抜粋したものです。)

第1回 10月30日(日)

和歌山県教育庁教育総務課の馬場一博氏が「和歌山における初等教育のはじまりと展開」というテーマで講演されました。その中で、小学校数の推移や就学率の向上、学校教育の普及・充実などを話されました。また、大正・昭和初期の県内の学校や授業風景もスライドで紹介されました。

【声】  
「懐かしい郷土の写真を見て、このような小学校があちこちにあったことを呼び起こすことが出来ました」



馬場一博氏の講演

第2回 11月13日(日)

和歌山県立陵雲高等学校教諭の小山警城氏が「紀州の藩学と庶民教育」という

テーマで「紀州藩の儒学」「藩の教育施設」や「寺子屋での教育」等について講演されました。

【声】  
「紀州藩吉宗の時代から十四代までの藩学について具体例をあげ身近に感じられた」「治宝公の業績がよく分かった」



小山警城氏の講演

第3回 11月27日(日)

鈴鹿国際大学非常勤講師の笠原正夫氏が「学徒勤労動員と戦時期の和歌山の学校」というテーマで講演されました。その中で、当時の県内旧制中学校の学徒動員の状況や津本陽氏が書かれた「嵐の日々」についても語られました。

【声】  
「実話にもとづいて話をしてくださって生の声を聞くことが出来ました。」「伺っていて胸が一杯になりました。」



笠原正夫氏の講演

第4回 12月3日(土)

玉川大学教育学部助教授・慶應義塾大学習員研究員の曾野洋氏が「明治期和歌山中等教育の魅力」というテーマで講演されました。またその中で、福沢諭吉と和歌山との関わりや百年前の或る中学校長の魅力として徳義中学校の岡田重直校長についても語られました。

【声】  
「徳義中学校の教育体制に非常に興味を感じました」「岡田重直校長に感銘しました」



曾野洋氏の講演

第5回 12月10日(土)

和歌山大学教授の江利川春雄氏が「紀州和歌山の英語教育史を掘りおこす」というテーマで講演されました。講演の中では、慶應義塾の英学と紀州和歌山とのつながりや、河島敬蔵や吉田直太郎など、和歌山の英学者や英語教育者の業績についても紹介されました。

【声】  
「紀州和歌山の歴史の深さに驚き、もう一度英語にふれてみたいくなりました。」「和歌山は英語教育で先進県であったことをはじめて知り驚きました」

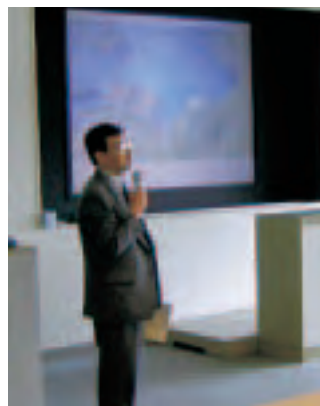


山田昇氏の講演

第6回 12月17日(土)

元和歌山大学教授・奈良女子大学名誉教授の山田昇氏が「和歌山における師範学校の設置と教員養成」というテーマで講演されました。その中で、森有礼初代文部大臣の和歌山来県の様子や明治、昭和にかけての師範学校や教員養成の状況などを語られました。

【声】  
「今回の歴史講座は直接自分が生きてきた道筋に関係したことが多かったので改めて考える機会、振り返る機会となり充実感がありました」「先人達が後世のために苦労した面を改めて知った」



江利川春雄氏の講演

今後さらに魅力ある講座の開催に努めたいと考えています。

(山東 卓)

「自然災害における歴史資料等保全対策システム」の開発

1 はじめに

当館では、阪神・淡路大震災を契機に、県内の歴史資料等の所在情報を把握する事を目的として、「民間所在資料保存状況調査」を平成9年度から行ってきました。そして、平成17年度を以って全県下の調査が完了します。

この調査で、次の2点のことが明らかになりました。

歴史資料等が県内各地の千ヶ所を超えるところに分散して所在し、各所在場所での保存形態・保存量がそれぞれ異なっている。  
歴史資料等を保全するための人材は県内各地に分散していて、人数が限られている。

これらのことから、自然災害の発生時に歴史資料等を保全するためには、普段から、被災が想定される地域の歴史資料等の所在情報と人材の所在情報を関連させ、万一の被災時に迅速に対応できる対策を講じておく必要があると考えられます。

このように表現すると、お読みになつていらつしやる方々の中には疑問を持たれる方もいらつしやるかもしれませんが、自然災害が発生した場合最優先されるのは、もちろん人命の確保でありライフラインの確保であります。

歴史資料は未来（後世）に伝えるべき貴重な情報ですので、生命の確保やライフラインの確保と同様に、歴史資料の保

全も大切です。そのためには次のように示すような機能を持つシステムを構築し、普段からも歴史資料の保全対策を検討しておく必要があると思われま

歴史資料の所在地を地図上で把握できる。シミュレーションにより、発生が予想される自然災害の状況を把握できる。自然災害の発生が予想される地域の歴史資料が検索できる。

以上のような目的から、私共は昨年四月より自然災害における歴史資料等保全対策を支援するシステムとして「民間所在資料等防災システム」の構築を進めています。

2 システムの概要

「民間所在資料等防災システム」は、図1にも示すように、GISを利用して歴史資料の所在地を地図上で把握したり自然災害の発生が予想される地域の歴史資料を検索する「所在情報検索システム」と、民間所在資料状況調査や災害時の歴史資料等の避難を検討する「人的支援ネットワークシステム」や歴史資料の重要性についての普及・啓発や人材育成等を目的とした「サポートシステム」とから構成されています。そして、それぞれのシステムの相互の関係は図1に示すものとなっております。

3 具体的な構築作業

前述したように、民間所在資料等防災システムは3つのシステムから構成されていますが、今年度は「所在情報検索システム」と「人的支援ネットワークシステム」の構築に取り組んでいます。そして、この構築に当たっては館長以下数名

の職員で検討を重ねながら、デジタルコンテンツの作成も含めた構築作業を進めています。

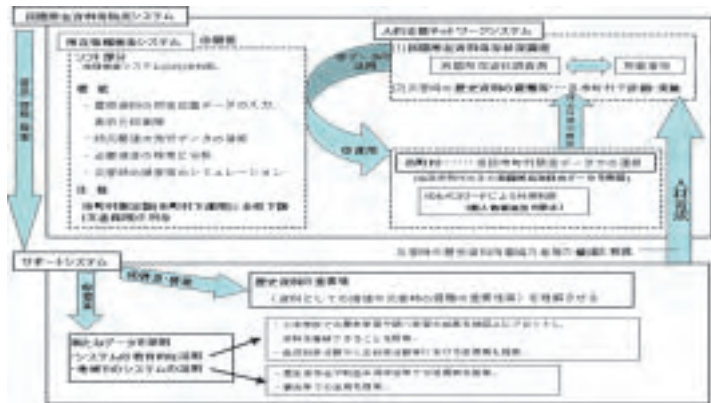


図1 民間所在資料等防災システムの構成図

【GISの活用と用いるデータ】

前述でも示しましたが、歴史資料の所在地を地図上で把握するため、「所在情報検索システム」にGIS（地理情報システム）を活用することを検討し、作業を進めました。その際、この検索システムが持つ機能を図2に示すようなイメージとしました。

これは、各階層（レイヤー）に、必要な地図や画像、データなどを表示し、目的に応じてそれぞれ必要なレイヤーを重ねて表示するものであります。また、その階層は大きく分けて次の3つの部分に

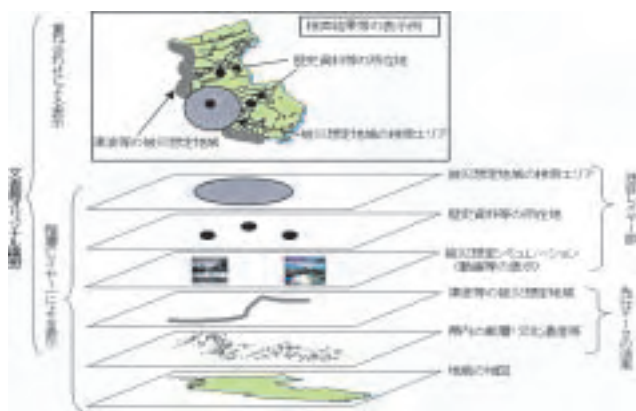


図2 所在情報検索システムのイメージ

なっています。

地図

・国土地理院が発行している数値地図を用いて地域図を表示する。

先行データ

・県庁の各課室が作成したり管理している、防災に関連したデータ（地震発生時の津波の浸水深予想や県内の断層、地すべり危険地域など）を活用し表示する。

独自レイヤー

・歴史資料の所在地の表示や検索を行う。  
・自然災害等の被災を想定したシミュレーションを表示する。

4 所在情報検索システムのしくみについて  
【地図や画像の表示】



図3 和歌山市の地図に津波による浸水が想定される地図画像を重ねて表示

県内各市町村の地図を画面に表示し、必要に応じて特定地域を拡大表示することが出来ます。これには国土地理院の数値地図（空間データベース）を利用しています。

防災に関する先行データとして、jpg画像やシェープファイルを必要に応じて表示できます。

- ・震度分布図、液状化危険度分布図、津波浸水深分布図（県下各沿海部）などの地図画像（.jpgファイル）をレイヤー上に表示させます。
- ・断層、急傾斜危険地域、指定文化財などのシェープファイルをレイヤー上に表示させます。

民間所在資料の所在地を示したレイヤーを表示させることが出来ます。

この、については、の地図との位置あわせを行っているため、それぞれを重ね合わせて表示することが出来ます。



図5 シミュレーションを表示するレイヤー

また、必要に応じて、それぞれを単独で表示することも出来ます。図3・図4はその表示例です。

（2）想定される津波など自然災害等のシミュレーション

シミュレーションを表示するためのレイヤーに津波等の被害が予想される地域の被災想定動画の埋め込んでいます。図5で表示しているレイヤーは、図4で表示させている画面の上に新たなレイヤーを作成し、その上に動画を埋め込んだものです。画面中の写真を表示した画面右上のボタンを押すことにより、その地

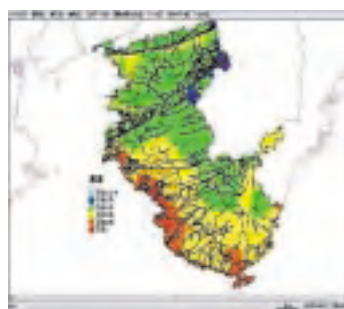


図4 地震の震度予想を表す地図画像に県内の断層を重ねて表示

域における津波来襲の動画が再生されます。この動画を見ることにより津波による被害を実感することができ、防災に対する意識付けが出来るものと思われれます。

（3）民間所在資料の所在地や内容の表示と条件による検索

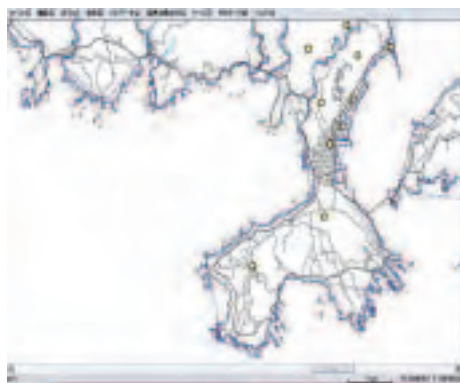


図6 民間所在資料の所在地を表示（図中の丸印）

民間所在資料の所在地を検索するレイヤーでは次のことが行えるようになっています。

県内各市町村の民間所在資料の所在地をレイヤー上にプロットし地図上に重ねて表示。（図6）

各市町村内の民間所在資料を一覧表示し、個々の内容も表示。（図7）

一定距離など条件による検索を行い、その結果を表示する。また、個々の内容も同時に表示する。（図8）

これにより、普段から民間所在の歴史資料等の所在地を画面上で把握しておくことが出来ます。また、自然災害等の想定地図を重ね合わせ、被災が予想される地域を一定距離の円で検索することにより、該当の歴史資料等の所在地を抽出す

5 おわりに

私共が構築を進めている民間所在資料等防災システムについてご紹介しましたが、普段から防災に対する意識を高く持つことが重要ではないかと感じます。

（山東 卓）



図8 一定距離による所在地の検索と結果の表示

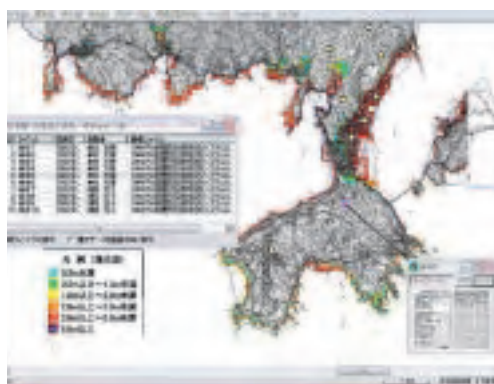


図7 所在地の一覧表示と個別の表示

ることが出来ます。そして、災害が発生する以前の資料待避対策を講じることも可能になると思われます。

平成17年度民間所在資料調査員研修会  
「紙資料の保存 対象を理解して取り扱う術」  
「民間所在資料等防災システムについて」  
「和歌山県の公文書管理制度」

和歌山県内の古文書等の所在地や保存環境を確認するために平成9年に始まった「民間所在資料保存状況調査」は、17年度をもって終了します。本調査に関する最後の研修会が17年11月25日に開催されました。研修会は二部構成で、(財)元興寺文化財研究所金山正子総括研究員、当館山東卓主任、和歌山県総務部総務学事課小西秀彰主事が講演・報告を行いました。本調査調査員の外、県内市町村の市町村史編さん担当・教育委員会文化財担当者や、文書主管課・合併協議会の方々も参加されました。

第一部「歴史資料の保存対策について」  
金山正子氏の講演  
「紙資料の保存 対象を理解して取り扱う術」

紙資料を永く保存していくためには、まず、和紙・洋紙等紙自体や、墨・インク等の素材と性質を知り、次に光・熱・水等による影響や生物被害等、紙を劣化・破壊させる原因を知り、その上でそれぞれの保存場所や予算に応じた対策が必要で  
す。  
金山氏は、紙やインク等の種類・性質や、劣化・破壊はどのようにして起こるのかを詳しく話され、保存対策について具体的に説明されました。全ての素材に

共通した理想的な保存条件はなく、素材や保存場所によって、よりベターな環境を保つことが大事なようです。

当館山東卓氏の報告  
「民間所在資料等防災システムについて」  
(本紙6～7頁を参照して下さい。)



金山氏の講演

第一部「市町村合併時における公文書等の保存について」  
小西秀彰氏の講演

「和歌山県の公文書管理制度」  
公文書の適切な管理の例として、県の公文書管理制度を担当が紹介しました。小西氏は、県の保有する情報は県民の共有財産であり、県民の知る権利を守り、行政が説明責任を果たすための情報公開制度が機能するためには、適切な文書管理が前提となるため、情報公開制度と公文書管理制度は「車の両輪」であると述べました。そして、和歌山県庁の公文書管理制度を詳しく説明し、今後の課題として、県職員意識向上による適正化の推進と、県情報政策課との協働による電子県庁化への取り組みを挙げました。

(藤 隆宏)

## 文書館の利用案内

### 利用方法

閲覧室受付にある目録等で必要な資料、文書等を検索し、閲覧申請書に記入のうえ受付に提出してください。文書等利用の受付は閉館30分前までです。

閲覧室書棚に配架している行政資料、参考資料は自由に閲覧してください。複写を希望される場合は、複写承認申請書に記入のうえ受付に提出してください。複写サービスは有料です。

### 開館時間

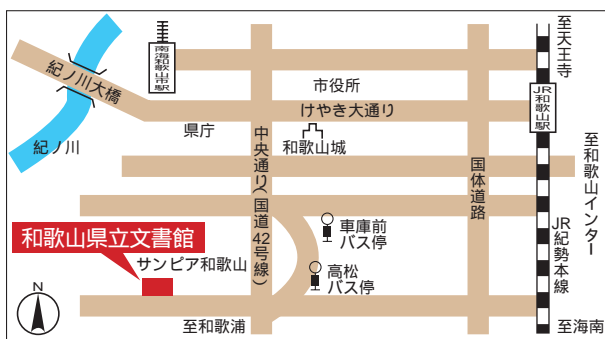
火曜日～金曜日 午前10時～午後6時  
土曜日・日曜日 午前10時～午後5時  
5月5日・11月3日 午前10時～午後5時

### 休館日

月曜日・国民の祝日(5月5日・11月3日を除く。ただし、その日が月曜日にあたるときはその翌日)  
年末年始(12月28日～1月4日)  
館内整理日(毎月初日・1月5日・月の初日が月曜日ときは翌日も休館)  
特別整理期間(毎年6月中に10日間)

### 交通のご案内

和歌山バス高松バス停下車徒歩約3分  
JR和歌山駅からバスで20分  
南海電鉄和歌山市駅からバスで20分



ホームページアドレス

<http://www.wakayama-lib.go.jp/monjyo/>

和歌山県立文書館だより 第18号  
平成18年2月28日 発行  
編集・発行 和歌山県立文書館  
〒641-0051  
和歌山市西高松一丁目七 三三八  
きのくに志学館内  
電話 〇七三 四三六 九五四〇  
FAX 〇七三 四三六 九五四一  
印刷 有限会社隆文社印刷所